

「やさしい日本語」研究が目指す社会
—言語権、わかりやすい日本語、社会実装—

一橋大学国際教育交流センター教授 庵 功雄

本発表では、はじめに、「やさしい日本語」研究が目指す 30 年後の世界観を提示し、その実現のために、「やさしい日本語」研究がどのような形で進められてきているのかを示す。

「やさしい日本語」研究は、①言語的少数者（マイノリティー）のための「やさしい日本語」（Easy Japanese. EJ）と、②日本語母語話者（マジョリティー）にとっての「やさしい日本語」（Plain Japanese. PJ）に分かれる。

EJ は、マイノリティーが日本社会に参加する上での言語的障壁を取り除く「ことばのバリアフリー」（あべ 2023）として機能する。具体的には、主に外国人（非日本語母語話者）の大人を対象とする「居場所作りのための「やさしい日本語」」と、外国にルーツを持つ子どもやろう児（先天的にほとんど耳が聞こえない子ども）を対象とする「バイパスとしての「やさしい日本語」」に分かれる。

EJ は、マイノリティーが、1) 対象言語を学ぶ権利、2) 母語・継承語で／を学ぶ権利、などを定めた「言語権」を保障するための言語的手段の 1 つである（庵 2026a）。本発表では、言語権の観点から「札幌ろう学校裁判」の事例について紹介する。

EJ の重要な分野である「「やさしい日本語」への書き換え」は、普段の日本語表現に潜むわかりにくさを可視化する機能を持っている（Cf. 野田・森口 2003）。

日本語社会には「難しい（難しげな）ことばや漢字を使って表現することが頭がいいことだ」と考える「難しさへの信仰」があるが、こうした考え方については既に明治初期に福沢諭吉が痛烈に批判している（福澤 1873）。

PJ は、「難しさへの信仰」を捨て、「論理的でわかりやすいこと」を日本語表現の評価基準とすることを提案するものである。これは、海外の「わかりやすいことば (Plain Language)」の考え方に対応するものであり、日本語母語話者（マジョリティー）のコミュニケーション能力を高め、日本社会の国際化にも貢献する。

最後に、「やさしい日本語」の考え方が、現在急速に勢力を増しつつある排外主義に対する有力な対抗言説（refutation）になり得ることを示し、「やさしい日本語」を日本社会に実装する方策について考える。

参考文献（主なもの）

※事前に目を通していただけると、議論がわかりやすくなると思います。

※庵の「やさしい日本語」に関する業績は <https://researchmap.jp/read0046564> 参照。

庵功雄（2026c）「生成系 AI と「やさしい日本語」」『羅（うすもの）』4号、

https://note.com/usumono_ogaki/n/nfe8be3de8820

日本学術会議言語・文学委員会・言語コミュニケーションと共生分科会 (2026)「異なる背景を持つ人々が共に生きるための言語に関する理念・認識の共有と取組の必要性」

<https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf2/kohyo-26-h260928-1.pdf>

あべやすし(2023)『増補新版 ことばのバリアフリー』生活書院

庵功雄 (2016)『やさしい日本語』岩波新書

庵功雄編 (2026)『「やさしい日本語」とその周辺：多様な広がりと進化する理念』ココ出版

庵功雄編 (2022)『「日本人の日本語」を考える』丸善出版

庵功雄編 (2020)『「やさしい日本語」表現辞典』丸善出版

庵功雄ほか編 (2019)『〈やさしい日本語〉と多文化共生』ココ出版

庵功雄 (2026a)「言語的少数者の言語保障と日本語教育―「やさしい日本語」の理念からの考察―」日本言語学会第3回言語権セミナー発表資料

<https://researchmap.jp/read0046564/presentations/54385707>

庵功雄 (2026b)「2つの「やさしい日本語」」庵功雄編『「やさしい日本語」とその周辺』pp.1-56、ココ出版

庵功雄 (2023a)「今後求められる日本社会像と「やさしい日本語」―Sustainable Multicultural Society を目指して―」『小出記念日本語教育学会論文集』31、pp.129-148

<https://hit-u.repo.nii.ac.jp/records/2057166>

庵功雄 (2023b)「日本語表現の改新と「やさしい日本語」―日本語研究者が果たし得る役割」『日本語の研究』19(2)、pp.53-69

https://www.jstage.jst.go.jp/article/nihongonokenkyu/19/2/19_53/_article/-char/ja/

Iori, I. (2023c) “The Philosophy and Practice of *Yasashii-Nihongo*,” 『ヨーロッパ日本語教育』26、pp.14-37、https://researchmap.jp/read0046564/published_papers/43136303

庵功雄 (2021)「日本語教育、日本語学の社会貢献―ろう児に対する日本語教育を例に―」『多元文化交流 <特集>教育関係者の社会貢献』13、pp.9-20

https://ivoryalpaca6.sakura.ne.jp/isaoiori/rouzi_toukai.pdf

Iori, I. & Oka, N. (2016) “A Preliminary study on teaching written Japanese to deaf children,” Hitotsubashi Journal Arts and Sciences. 57(1), pp.21-28

<https://hit-u.repo.nii.ac.jp/records/2045206>

野田尚史・森口稔 (2014)『日本語を書くトレーニング (第2版)』ひつじ書房

福澤諭吉 (1873)「文字之教端書」<https://dcollections.lib.keio.ac.jp/ja/fukuzawa/a21/73>